
香り

ショウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

香り

【Nコード】

N1303Y

【作者名】

シヨウ

【あらすじ】

読んで頂き感想など聞かして頂けるとありがたいです。

通り過ぎて行く

君は、僕の目には、光って見えた

周りが、見えなくなった

あの瞬間

君の事何も知らない

けれど覚えた事が一つだけある

君の香りは、レモンの香り

スツキリとした爽やかな香り

君の香りは、恋の囁き

誰もが、君を見ている

心が君に対して一直線に行けと後押ししてくれるが

体が、ゆうことを聞かない

嫌われるのが、怖くて

君が、通り過ぎるたび

声をかけられない自分が惨めで、情けない

心は、正直で体は、わがまま

日に日に君を好きになっていく

どうすればいいかの分からない

諦めようとしても諦められない

風が君の香りを運んで来てくれるから

君の香りは、勇気の香り

わがままな体を、動かしてくれる

君の笑顔は、元気をくれる

笑顔を見た時、元気が湧いてきた

動き出せ僕の体君にもらった勇気や元気の恩返しをするために

何も出来なくて悲しむのは、僕で

君が、振り向いてくれたとして

僕は、友達で終わってしまふ

そんな関係で終わるのは、嫌だ

後悔は、したくない

君の香りが僕を突き動かす

君の存在が、僕の生きがい

君に会うために、生きている

君の事が、誰よりも好き

誰にも、止められない感情

僕自信が君の為に、出来ることがあるなら

勇気を持って、聞いてみよう

君の香りが、僕を呼ぶ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1303y/>

香り

2011年11月1日21時25分発行